

生活機能向上連携加算による 施設間連携についての取り組み報告

社会医療法人社団さつき会 袖ヶ浦さつき台病院
地域リハ・生活支援センター

社会福祉法人瑞光会 袖ヶ浦瑞穂特別養護老人ホーム
瑞穂デイサービスセンター

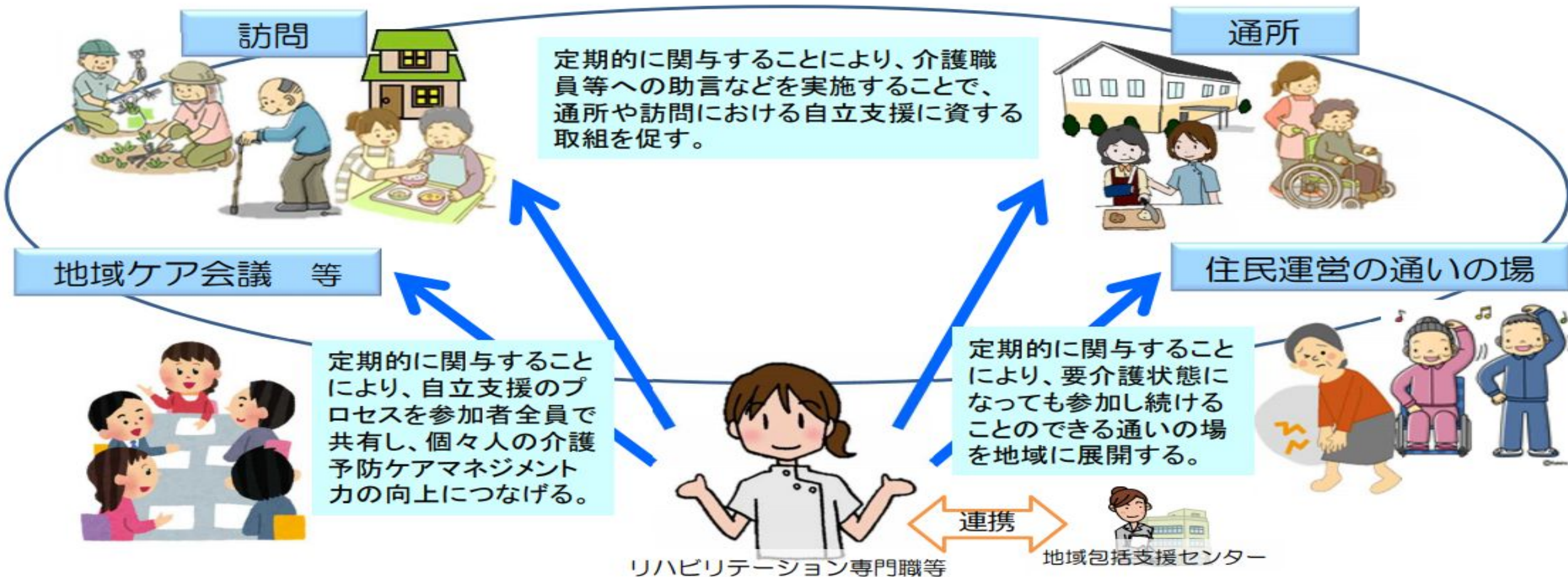


理学療法士
福元 浩二



地域リハビリテーション活動支援事業の概要

地域における介護予防の取組を機能強化するために、通所、訪問、地域ケア会議、サービス担当者会議、住民運営の通いの場等へのリハビリテーション専門職等の関与を促進する。



リハビリテーション専門職等は、通所、訪問、地域ケア会議、サービス担当者会議、住民運営の通いの場等の介護予防の取組を地域包括支援センターと連携しながら総合的に支援する。

生活機能向上連携加算

概要

<現行> <改定後> なし ⇒ 生活機能向上連携加算 **200単位/月**（新設）

※個別機能訓練加算を算定している場合は100単位/月 単位

※**個別機能訓練加算：入所：12単位/日**

通所：Ⅰ:46単位/回 Ⅱ:56単位/回

○訪問リハビリテーション若しくは通所リハビリテーションを実施している事業所又は リハビリテーションを実施している医療提供施設（**原則として許可病床数200床未満のものに限る**）の理学療法士・作業療法士・言語聴覚士、医師が、特定施設入居者生活介護事業所等を訪問し、特定施設入居者生活介護事業所等の職員と共同で、アセスメントを行い、個別機能訓練計画を作成すること。

○機能訓練指導員、看護職員、介護職員、生活相談員その他職種の者が協働して、当該計画に基づき、計画的に機能訓練を実施すること。（3か月に1回以上のペースでのチェックの際もリハ職らが事業所を訪問）

○連携先に支払う委託料はそれぞれの合議により適切に設定する必要がある

理学療法士



支援

支援

支援
情報共有

支援対象は
入所者・通所者・職員

利用者



- ・正しい体操・姿勢
- ・痛みの対応
- ・個別的評価・介入
- ・評価・測定
- ・居室・住宅評価

環境



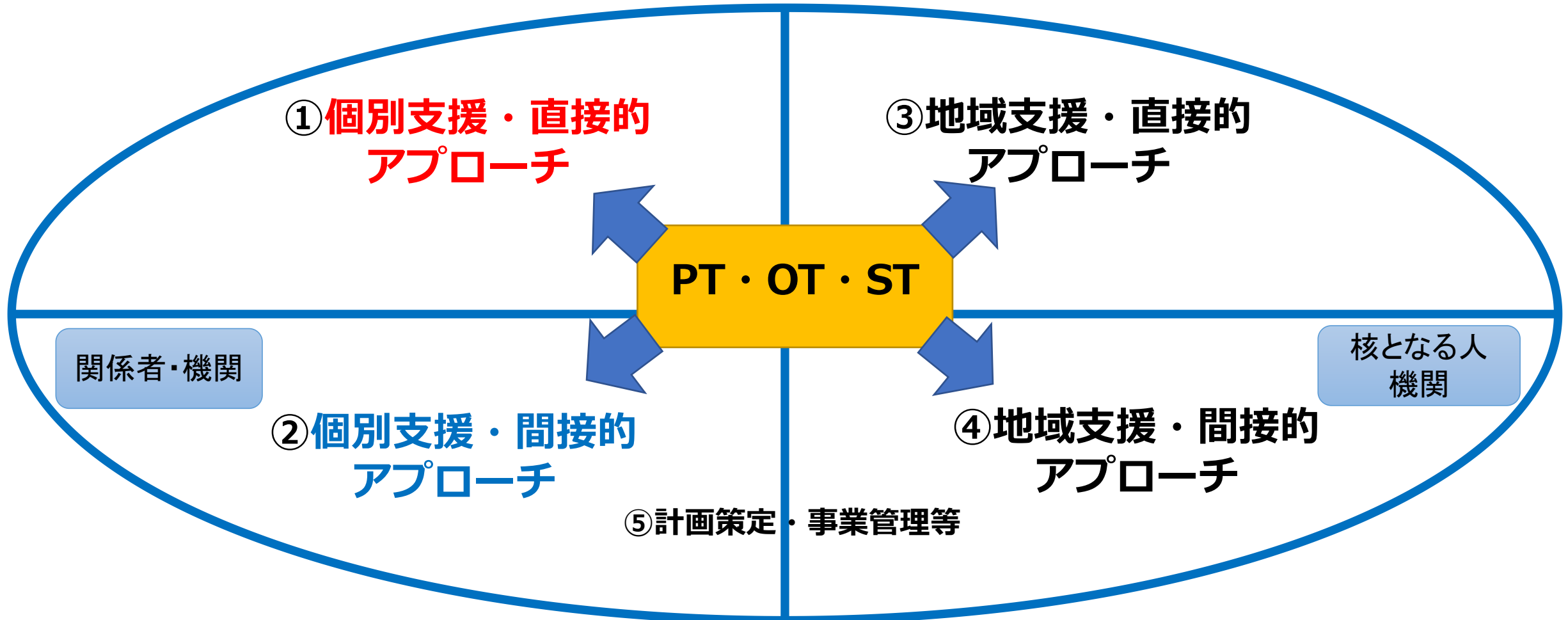
- ・ベッドの位置
- ・手すりの設置
- ・椅子の構造や高さ

職員



- ・介助指導
- ・腰痛予防
- ・体操指導

PT・OT・STの活動概念図



- 身長・体重・BMIの身体組成、疾病・障害の分類、移動動作レベル・ADLを確認
- 立位に支障を及ぼす、関節可動域制限、拘縮の有無・程度を確認
- 起立できるかどうか、立位保持がどのくらいか、歩行は基本動作の状況
- 認知や精神障害の程度の確認
- 「心身機能」「機能的構造」「活動」「参加」の構造に沿って本人構造を明確化
- 特に生活行為や生活範囲を妨げている要因を探り、環境調整を明確化
- 介助者や家族による介助方法等により、症状を増悪させていないか、確認
- 短期目標の具体的レベル、設定について妥当性や過不足を検討する
- 規則正しい生活や散歩などの運動、通いの場などへの社会参加が虚弱や廃用の予防となることを助言する
- サービスの関与や杖などの補助具が自立支援につながっているか確認・助言
- 疾患特異か生理的退行変化なのか、廃用症候群なのかの視点を意識した助言を行う

現在、施設で主に行っていること

- 入所・通所利用者へのリハビリテーションの提供（個別・集団）
- 入所・通所利用者の個別機能訓練計画書作成
- 職員への技術提供・指導・勉強会の開催
（トランスファー、車いすシーティング、簡単な体操・集団リハ）
- デイサービスにおける、送迎同行
（利用者の環境把握、メニュー作成のため）
- 入所者への生活支援・ケース会議出席
- 職員の腰痛予防への介入
（離職率を下げる、腰痛を防ぎ、介助が行いやすい動作習得）

各小集団での課題・運動



洗濯動作に対しての小集団



階段・段差昇降に対しての小集団

結果

PTの声



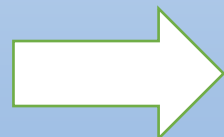
『退院後の経過を追うことができる』
『他事業所支援という職域の拡大ができる』
『利用者の自立支援・重度化防止ができる』

職員の声



『このやり方なら痛くない』
『痛みの事が聞けて良かった』
『正しいやり方で教われた』

経営者の声



『セラピストに繋ぐことで職員が利用者の自立支援に向けて話す機会が増えている。また、職員個々の視野が広がっている』

- わかりやすい表現を心掛け、専門用語はできる限り避ける
- 何を伝えたいのか、議論を明確にして助言を行う
- 助言や説明はポイントを絞って、短時間で説明を行う
- 助言者として謙虚である事を意識し、威圧的にならないように配慮する
- 問いかけただけで終了せずに参加者に有益になるアドバイスを心掛ける
- 具体的かつ実行可能な助言を行う
- 自身の専門性に限らず、良いと思われる支援内容について、何が良いかを具体的に伝え、会議に参加しているもので共有できるように配慮する
- 「いつ」「どこで」「誰が」「何を」「どのように」するかを明確にした助言を心掛ける

生活のデザイン

と

目標到達のための手法の提示

です

※現場の環境に柔軟に対応する能力も

それぞれの職種を理解することが必要

リハビリテーション職のわからない生活があり

他職種のわからない運動機能があります

リハビリテーション専門職は生活の理解が不十分であるということを実感したうえで、リハビリテーション専門職としての意見を伝える必要があります

リハビリテーション職はサポートすることが大きな役目です



課題は効果判定（施設出向に対する）をどのようなツールで行っていくか？
また、後進育成を考えた時のマニュアル作成が急務となる

地域生活期における役割とは

地域生活期とはチーム医療

- 地域生活期 = コミュニケーション
- コミュニケーション = 有効な治療法の推進
- ディスカッション = 有意義な臨床を行うための戦略



チーム医療とは
知識・技術の共有だけではなく
価値観・お互いの情報の共有
そのために
コミュニケーション！！